

切れ目なく母親支援

甲斐で来月 産婦人科診療所開業

甲斐市が進める「妊娠から出産、育児まで切れ目のない支援」の拠点となる産婦人科の診療所が10月に開設される。子育てしやすい環境を整えようと、市が山梨大医学部を通じて誘致した。開設後は女性医師が出産前後の診療や相談にあたり、分娩は山梨大医学部付属病院が受け持つ。

フィンランドで「切れ目ない支援」を提供するネウボラ(助言の場)に倣った「甲斐市版ネウボラ事業」の一環。「このはな産婦人科」(甲斐市西八幡)は10月3日に開設され、出産後の母親の体調面や精神面でのケアに重点を置く。医師25年目で山梨大産婦人科助教の中村朋子さん(48)が院長を務め、非常勤の女性

フィンランドで「切れ目ない支援」を提供するネウボラ(助言の場)に倣った「甲斐市版ネウボラ事業」の一環。「このはな産婦人科」(甲斐市西八幡)は10月3日に開設され、出産後の母親の体調面や精神面でのケアに重点を置く。医師25年目で山梨大産婦人科助教の中村朋子さん(48)が院長を務め、非常勤の女性

る「などの不調があり、つらかった時期は多くが出産直後と答えた。市は法律で義務づけられた1歳6カ月児と3歳児の健診に加え、4カ月児、2歳児の健診を独自に行う

る「などの不調があり、つらかった時期は多くが出産直後と答えた。市は法律で義務づけられた1歳6カ月児と3歳児の健診に加え、4カ月児、2歳児の健診を独自に行う



中村朋子さんは「出産前後も含め、若い人から高齢者まで地元の人が相談しやすい診療所を目指したい」と語る＝中央市の山梨大医学部



10月3日に開業する「このはな産婦人科」＝甲斐市西八幡

産後に面談重ねてケア

が、こうした出産直後の母親のケアは空白になりがちだった。このため、「このはな産婦人科」に週1回、産後1カ月半の母親と乳児の集団指導や交流の場を設け、必要な場合は医師の個別指導につなげていく。中村さんは「核家族化が進み一人で悩む母親が多い。出産直後に面談を重ねて産後うつや早期発見や授乳に関する悩みの解決に向けて努力したい」と話す。

診療所は鉄骨2階建てで集団指導をする「産後ケア室」や授乳トラブルに対応する「乳房チェック室」、手術室などを備える。胎児の様子が見える超音波診断装置など高価な医療機器は市が国の補助を使って購入したものを借り受ける。

分娩自体は近くにある中央市の山梨大医学部付属病院が受け持つ分業方式「セミオープンシステム」を採用。診療所の医療情報は病院と共有されるとい

(平畑玄洋)